

【総合領域】

研究論文

戦後長崎の原爆慰霊活動及びその爆心地との関連から見る長崎平和公園の考察

李 桓^{*1}

A Study on Nagasaki Peace Park through a Documentary Survey on Memorial Services for the A-Bomb Victims soon after the World War II, with a focus point on the Location of the Ground Zero

LI Huan

Summary

This paper studies local newspapers soon after World War II. The aim of this study is to take a new look at the spot of Ground Zero by checking memorial services for the A-bomb victims and reconsider the concept in Nagasaki Peace Park planning.

Keywords : Nagasaki Peace Park, ground zero, memorial services for the A-bomb victims, memorial location of A-bomb

キーワード：長崎平和公園、爆心地、原爆慰霊活動、被爆場所の記憶性

1. はじめに

長崎平和公園は被爆の歴史を記念する最も重要な施設の一つである。しかしこれまで、そのあり方やコンセプトについて計画学的な観点からの吟味や批評が少なく、研究課題の一つとなっている。戦後 78 年間を経て、諸段階の計画を通して今日の姿に至っているのだが、それをどう評価し、そして未来に向けて更にどう発展させるか、注目すべきところである。都市は常に発展・変化するものである。その構成の一部としての平和公園も今の状態に留まることはないであろう。現に都市幹線道路計画による平和公園西地区の再整備が行われており、一部が変わろうとしている。

平和公園は長崎市の公開資料（例えばホームページ）から分かるように、「原爆の実相を訴えると共に、世界平和と文化交流のための記念施設」である。国道を挟んで東西二地区に分かれ、「願い」、「祈り」、「学び」、

「スポーツ」、「広場」という 5 ゾーンで構成され、総面積 18.5ha もある（広島平和公園は 12.21ha）。そのうち、原爆の歴史を記念するものは主に東側の「願い」、「祈り」、「学び」の 3 ゾーンに限る。面積も公表されている数値より大きく下回る。「ゾーン」と表現されると、複数のエリアで構成されるまとまりのある公園だと印象付けられるが、国道などの道路によって隔てられ、一体性はなく、別々の公園になっているのが実状だと言える。また、一般的に全域をまとめて「平和公園」と称する習慣はなく、「願いのゾーン」、つまり平和祈念像のあるエリアは「平和公園」と、「祈りのゾーン」、つまり原子爆弾落下中心地のあるエリアは「爆心地公園」と称される。スポーツ施設が集中する東地区は平和公園という認識は薄いではないかと考える。統一性の欠けるところは記念公園の主題性から考えると、問題点の一つではないか。

^{*1} 工学部工学科 建築学コース 教授

2023 年 10 月 10 日受付

2023 年 12 月 4 日受理

長崎の平和公園について、人文科学分野の研究による指摘がいくつか挙げられる。まず末廣眞由美の研究⁽¹⁾がある。氏は原子爆弾落下中心碑のある公園と平和祈念像のある公園の成立を詳細に考察した上、平和祈念像のある公園が平和祈念式典の主な公園に取って代わることによって、「原爆死没者の慰霊を行う主体と、平和を祈念する主体が分裂を起こしている」ことを指摘している。この指摘は長崎のおかれる社会的な背景についても、原爆記念公園のあるべきコンセプトづくりについても示唆に富むものであると考える。次は大平晃久の研究⁽²⁾がある。氏は、モニュメントの構想から平和祈念像までの流れを考察しつつ、復興平和博覧会という断片も踏まえ、平和祈念像のある公園の成立を明らかにし、そして「記憶の場」としては、「爆心地公園こそが最も価値」ある、という観点を示した。これは平和祈念像のある公園に重心を置くことの問題点を指摘したものである。筆者も同様の問題意識を持ち、計画学的な研究の必要性を感じている。大平は、長崎原爆落下中心碑の意義についても、その歴史的な流れから考察をしている⁽³⁾。

上に挙げたような人文科学分野での研究は計画学にも示唆を多く与えてくれる。空間計画を主眼とする計画学は、コンセプトについて深く洞察しなければならず、その着眼の適否によって空間の内容や表現に影響が出る。時代の制約や政治的社会的な影響に左右されることもあろうが、それを超えることが大切とである。筆者は原爆の歴史に対する記念（或いは記憶）性という観点から、原爆投下の中心地という場所（「爆心地」ともいう）からその意味性を重要視し、そこに記念公園を構築するための根拠或いは原点を置く必要性を感じている。このような問題意識に基づき、本稿は爆心地と関連しながら、戦後初期における原爆慰霊活動やその変容について考察し、爆心地という場所が持つ意味を再確認しようとする。

戦後長崎の原爆慰霊活動については、西村明による優れた研究がある。氏の『戦後日本と戦争死者慰霊』⁽⁴⁾の中での「Ⅱ戦後慰霊と戦争死者—長崎原爆慰霊をめぐる一—」においては、長崎の戦後慰霊活動が詳しく考察されており、示唆に富むものとなっている。本研究はこれらの先行研究とは、近い調査領域があるが、計画学的な立場と場所的な視点を含めた考察として、研究の目標は相違するところがある。

用語についていくつか触れておきたい。本稿で使っている「慰霊」という言葉は原爆の記念公園を考察するときに、慰霊祭や慰霊活動などの社会的利用により、関連してくる概念である。筆者が知る限り、中国語には「慰霊」、またそれに類似するような表現はなく、一般的には「追悼」という言葉が使われる。日本語にも「追悼」は使われるが、「慰霊」とはニュアンスが異なる。また、宗教によって「供養」などの言葉もあり、更に、世俗的な性格が絡んで「顕彰」の意味合いが込められる場合もある。これらについては、人文科学分野において一定の掘り下げがあり、矢野⁽⁴⁾、西村⁽⁵⁾などの研究や國學院大學研究開発推進センターによる諸研究⁽⁶⁾を集成した書物が見られる。本稿では、概念の細部に入ることをせず、概して「慰霊」という言葉を使って、戦後の原爆死没者の追悼活動を網羅的にとらえ、タイトルに使っている。なお、文中では新聞記事などに見られる用語をそのまま引用しているので、統一的に扱っていない。これらの諸活動は、民俗学の領域にも属するものとして、文化的な性格も含まれ、尊重されるべきであると考えられる。慰霊活動は原爆記念公園に見られる重要な役割の一つである。一方、文化や宗教を超えたところで、公園には種々の活動を内包できる公共性、普遍的な考え方に応え得る性格が求められる。従って、原爆記念公園には独自の主題性のみならず、広い包容性が求められる。慰霊活動のほかに、もっと一般的な関わり方がある。日本文化に属さない外国人や過去の歴史と関わりのない若い世代が被爆地に訪れ、記念公園を訪問するのは、現地での見聞を通して歴史を知り、所感を得る。この種類の行為を当てはめる言葉として筆者は「追惜」という言葉を想起する。具体的に言うと、原爆による死をいたみ惜しむことである。「追惜」は一種の個人的な経験として、個人の主意や良心に基づくもので、普遍性のあるものでもありと見え、記念公園においては配慮されるべき側面である。個人的な経験というのは、「追悼会」や「慰霊会」などはあるが、「追惜会」はないからである。ダークツーリズムに共通する事象の一つは「追惜」という個人的経験ではないかと考える。本研究は慰霊活動について考察しているが、原爆記念公園における「追惜の場」としての性格を念頭に、爆心地という記憶の場の重要性を吟味したいのである。

爆心地は、一種の空地に過ぎないが、意味のある場所であり、「原爆遺跡」の一つである。昨今、「被爆建造物」が議論の話題になっている⁽⁷⁾が、物理的なダメージや当時の社会的な状況から評価が重視されるものの、場所の重要性に着目する議論が少ない。本研究は場所について観点を図りたい。筆者はこれまでに「戦後初期の長崎市原爆慰霊活動をめぐる新聞記事」⁽⁸⁾の執筆の機会に戦後の慰霊活動について考察した。本稿はこの論文をベースにしつつ、論点を更に整理したものとなる。

2. 長崎の戦後初期の慰霊活動

戦後の慰霊活動については、主として地方新聞の記事に記載されているものを拾いつつ、『長崎原爆戦災誌』及び『長崎市史年表』の記載内容も参照しながら、各活動が行われる場所と主催者を分かる形に整理し、年代別にて一覧表にまとめた(表、1945～1956年)。だいたい、1945年から1955年までの10年間を主に考察している。慰霊活動の主催者については、前文に触れた西村の方法に倣って、行政、宗教界、民間団体を分けて作表している。なお、合同開催の場合もあるため、表における分類は厳密なものではなく、目安の一つである。各年度における関連記事及び写真もピックアップして、表の右側に配置している。

各年度の慰霊活動を以下において概観する。(なお、人名・固有名詞については当時の新聞記事に見られる表記を尊重した。)

まず、1945年の原爆投下された約1か月後の9月中旬から、各民間団体が係る部門の死没者への慰霊祭がそれぞれの場所、またはお寺にて開催された。長崎市主催の戦災死没者合同慰霊祭は9月18日に磨屋国民学校にて神道形式をとって行われた。西村の研究によると、これは戦前の国家的慰霊システムの延長線上にあるものであるという。

翌年の1946年においては、7月から民間団体慰霊祭が開催され、8月9日の原爆1周年の記念日には杉本亀吉ら遺族有志による「長崎市戦災死没者慰霊祭」が松山町の爆心地にて開催され、当時の岡田市長が祭主となり、仏教各派の僧侶や一般市民が参列した、という。公式では「遺族有志」の主催とあるが、当時の長崎新聞には「長崎市主催」という記載もあり、曖昧なところがある。一種の官民合同の慰霊祭と推察する。この慰霊祭に関す

る写真は見つかっていないので、当時の爆心地の状況を具体的に知ることはまだできないが、爆心地という場所における合同慰霊祭の早期の事例として注目したい。前文に触れた末廣の研究によると、この11月から、地方自治体が慰霊祭を主催ないし援助することを禁ずる通達が出たということで、長崎市による公式の慰霊祭はおよそ1952年までにできなくなる。この年の11月には浦上天主堂の信徒による合同慰霊祭が天主堂の跡地にて開催される。

1947年以降になると、慰霊活動は8月9日の原爆の日に行われるようになる。仏教でいう3回忌に当たる年のためか、市連合青年団と仏教連盟共催の大供養会が開催され、慰霊祭のほか、打ち上げ花火や盆踊りが行われ、華やかな祝祭になることが見える。場所は本大工町の市民運動場となっている。一方、戦災者連盟主催の原爆殉難者の三回忌法要(仏式)は駒場町の元三菱寮跡地で行われる。カトリック信者は浦上天主堂の仮聖堂でミサが行われる。この年の慰霊活動は爆心地ではない理由は不詳だが、当時の新聞に載っている写真を見る限り、爆心地の周囲にトウモロコシ畑が作られていて、利用しにくい状況にあったのかもしれない。同年8月6日の新聞記事には爆心地の公園化計画が発表された。

1948年は原爆の3周年となり、市内の復興も進み、原爆中心地の公園化も実現された。新聞には「アトム公園」という表現が見られる。原爆記念日に合わせて、長崎市は爆心地公園において平和復興祭(文化祭)を開催した。当日夜は引続き、三菱会館にて「文化の夕」(講演会・舞踊など)が開かれる。この文化祭は復興を祝い、一種の平和記念の祭典であるが、爆心地公園の開園式が記念祭典の後に行われるので、爆心地は開催場所になったのである。一方、戦災者連盟による慰霊活動としての供養会はその日の午後2時頃、松山町電停前で開催された。爆心地公園は文化祭の会場になっていたため、供養会は松山町電停前(爆心地に近い場所)になったか。三菱工場関係者はそれぞれの場所にて、そして仏教会各宗派共同の「原爆死者追悼大法要」は大音寺にて、カトリック信者は浦上天主堂にて、それぞれの慰霊活動が行われた。この年に原爆中心地に5階建ての記念塔計画が記事に発表され、原爆を積極的にアピールする動きが一層顕著に見られるようになる。

表 長崎市における原爆慰霊活動（1945～1950年）

年代	★行政	■宗教界	*民間・団体	関連事項（写真、記事など）	
1945 S20			<p>* 三菱会館：9/15 三菱製鋼所従業員の戦災死没者合同慰霊祭</p> <p>* 寺町光源寺：9/15 長崎新聞社従業員の戦災死没者合同慰霊祭</p> <p>★磨屋国民学校：9/18 長崎市主催戦災死没者合同慰霊祭（神式）、祭主岡田市長、永野知事、陸海軍代表、官公衛、会社、各種団体代表、戦災者遺族多数参列</p> <p>* 寺町略台寺：9/19 市吏員、市関係団体、学校職員の戦災者慰霊祭</p> <p>* その他：9月のお彼岸の時期に入ると、三菱電機、川南工業、三菱兵器長崎県協力会などの慰霊会が各場所で開催</p> <p>11/9前後、長崎医科大、各中学校、女学校、町内会、企業組合等、それぞれ慰霊祭開催</p>		<p>左写真：この頃の爆心地の標識</p> <p>写真出典：『長崎原爆戦災誌』第1巻</p>
1946 S21			<p>* 浦上刑務支所跡地：7/4 長崎刑務所浦上支所の受刑者と造船勤報隊の戦災者の敬弔会。市内全寺院代表、知事、裁判所長、三菱造船所長、警察部長、新聞社長、一般市民が参列</p> <p>* 長崎医大調外科手術室焼跡：7/9 遺族ら、仏式読経供養を施行</p> <p>* 三菱造船立神食堂：8/4 元兵器、製鋼、造船、電機の三菱工場の殉職した従業員、学徒挺身隊、報国隊その他の関係者の合同慰霊祭</p> <p>■松山町爆心地：8/9 長崎市（杉本亀吉ら遺族有志）が主催「長崎市戦災死没者慰霊祭」を開催。岡田市長が祭主、仏教各派僧侶参集、一般市民参列。</p> <p>* 精機工場（元三菱兵器大橋工場）：午前9時から供養塔除幕式、引き続き慰霊祭</p> <p>■浦上天主堂跡（破壊された天主堂脇の広場）：11/23 浦上信徒の原子爆弾犠牲者の合同慰霊祭。</p>		<p>◇「将来の都市計画設計図 浦上に副中心地を 市中に三十六米の大道路」（長崎新聞 1946（S27）8/4）（筆者注：この記事にはまだ浦上爆心地一帯に「大公園」計画の発表はない）</p> <p>◇11/1～2 長崎市復興祭。三菱会館、本大工町演舞場、市内国民学校などにて</p> <p>写真：この頃の爆心地の標識</p> <p>出典：『長崎原爆戦災誌』第2巻</p>
1947 S22			<p>■本大工町の市民運動場：8/9 午後5時～連合青年団と仏教連盟共催の大供養会。午後6時～盆踊りと花火打ち上げ</p> <p>■浦上天主堂仮聖堂：8/9 午前7時殉難した1万信徒の霊を捧げるミサが行われた。</p> <p>* 駒場町元三菱寮跡：8/9 午前10時20分～長崎戦災者連盟主催「原爆殉難者3回忌法要」を仏式で行われる。白木の祭壇に「戦災殉難死者の霊」と記される遺碑が建てられる。</p>		<p>◇「長崎貿易まつり 原爆中心地に公園化計画」（長崎日日 1947/8/6）長崎市では8、9 戦災二周年と15日の貿易再開の日を記念して9日から20日まで…貿易まつり…観光長崎としての建前から市内松山町の原子爆弾爆心地一帯を公園化することなども計画</p> <p>左写真；この頃の爆心地の様子。トウモロコシ畑が作られている。写真出典：長崎新聞 1947. 8. 6</p>

上写真：駒場町での慰霊祭。写真出典：長崎民友 1947. 8. 10

<p>1948 S23</p>	<p>★松山町爆心地（アトム公園）：8/9 午前 11 時～ 長崎市主催「文化祭」（復興祭）開催。大橋市長、杉山知事、官民各団体代表者、宗教、文化、教育方面の関係者、長崎軍政府代表、学校生徒、市民など参列。その後、アトム公園開園式挙行。</p> <p>■浦上天主堂仮聖堂：8/9 午前 7 時～追悼ミサ。同教区の小、中、高生千余名による友をしのぶ会</p> <p>■今籠町大音寺：8/9 午前 10 時～長崎市仏教会各宗派共同「原爆死者追悼大法要」を執行、遺族を招く。</p> <p>■その他：8/9 午前 11 時 2 分、崇福寺、聖福寺、春徳寺、発心寺から名鐘を鳴らし、原爆三周年記念</p> <p>*爆心地松山町電停辺り：8/9 午後 2 時～戦災者連盟による供養会（慰霊祭）が行われた。</p> <p>*その他：三菱製鋼、精機が招魂祭、長崎医大付属諫早分院ではサイレンを鳴らせ黙とうを行うなど</p>	<p>★三菱会館：8/9 夜「文化の夕」が開催され、記念公園と舞踊が公開（『長崎市史年表』）</p> <p>◇「浦上に緑の聖域…市が描く観光長崎の縮図」（長崎日日 1948/8/9）…ここに平和と人類愛を表象するコンクリート 5 階建の塔を建て、1 階は休憩所、2 階には図書室、3 階には原爆記念品を保存、4 階には時刻を報ずる鐘をつるし、5 階には世界の聖人を安置しこの塔を囲んで文化施設を点存せしめて緑の聖地を作り、この聖域には世界各国の樹木を移し、戦争の惨禍を憎み平和を享受する精神に浸って新しい日本誕生の意義を心に銘ずる環境を作り上げよう…</p> <p>◇「平和宣言の動議 市政記者団から」（長崎日日 1948（S23）8/15）</p>  <p>写真：爆心地（アトム公園）での文化祭の様子。出典：長崎民友 1948. 8. 10</p>
<p>1949 S24</p>	<p>★松山町爆心地（国際平和公園）：8/9 午前 10 時 25 分～長崎市主催「文化祭」盛大に開催。大橋市長が原爆供養塔に花束をささげ犠牲者に慰霊。会場にパークハイム民事部長、ベテロ報道部長、田代副知事、若林代議士、小林参議院事務総長、石田地裁所長、藤木県議、望月市会議長、脇山商議会議長、小坂検事正、藤野佐世保市助役、及び市民約千五百名が参列。大橋市長が「宣言」、永井博士の令嬢カヤノさんの手から平和の鳩が放たれる。</p> <p>■浦上天主堂仮聖堂：8/9 午前 7 時～カトリック信徒による盛大なミサ</p> <p>■松山町爆心地（国際平和公園）：8/9 午前 8 時半～戦災者連盟と仏教連盟による合同慰霊祭</p> <p>■皓台寺：8/8、8/9 の両日朝 7 時～原爆戦災者の四周年追悼法要を行った。</p> <p>*城山町八幡神社境内：8/9 午前 11 時～城山町町内死没者慰霊祭</p> <p>*松山町爆心地（国際平和公園）：夜、芸能界の舞踊と連合青年団の盆踊り。各青年団の男女約 2 万人が原爆落下中心標を囲んで夜半過ぎまで踊った。</p>	 <p>◇「あす長崎国際文化都市宣言 遅しい復興の槌音 十一日間平和祝典一色に」（長崎日日 1949（S24）/8/8）</p> <p>◇「全世界の支援を希望 市長、復興の決意を披瀝」（長崎民友 1949（S24）8/10）</p> <p>左写真：爆心地での文化祭 写真出典：長崎日日 1949. 8. 10</p>
<p>1950 S25</p>	<p>*8/9 長崎市民は各地でしめやかな追悼会を執行した、家族を失った人、友人を失った人々など、あの日のように照りつけた午後零時 3 分、しばしの黙とうをささげ、平和によみがえる長崎の姿を報告し、山里、城山小学校でも当時の級友などの追悼を執行した。</p>	 <p>朝鮮戦争の勃発により、長崎市主催の文化祭行事は一切中止（『長崎市史年表』）</p> <p>◇「夏草、原子野に青く」（長崎日日 1950（S25）/8/9）</p> <p>写真出典：長崎日日 1950. 8. 10</p>

年代	★行政	■宗教界	*民間・団体	関連事項（写真、記事など）
1951 S26		<p>■松山町爆心地（原爆公園）：8/9 朝 10 時半～市戦災者連盟、市連合青年団並びに市仏教連合主催で原爆犠牲者を供養する慰霊祭が執行された。西岡知事、田川市長、脇山市議会議長、遺族などが参列。</p> <p>■浦上天主堂仮聖堂：8/9 朝ミサ</p>	<p>*城山小学校：8/8 平和を祈る少年像「平和」が除幕され、慰霊祭開催</p> <p>*山里小学校：8/9 午前 9 時「あの子らの碑」の前で慰霊祭</p> <p>*西重工大橋工場（元三菱兵器）：午前 9 時、供養塔前で慰霊祭</p> <p>*その他：浦上方面各町で町ごとの慰霊祭が行われた。</p> <p>*駒場町競輪場：夜、連合青年団主催の慰霊祭と供養盆踊りが 8/7 から三日間開催</p> <p>*浦上川ほとり：8/9 夜、城山町殉難者碑前常夜灯の火を移した万灯流しが開催</p>	 <p>写真：爆心地での慰霊祭 出典：長崎民友 1951. 8. 10</p> <p>◇「早くも六千円突破 長崎市平和祈念像建設基金」（長崎日日 1951 (S26) /8/10)</p> <p>◇「原子野に一大文化センター 文化会館や記念公園三年後には“夢の殿堂”完成」（長崎日日 1951 (S26) /8/10) …文化会館は山里町高台…、また記念公園は文化会館、競輪場、市営球場、庭球コート、総合運動場、ラグビー場など各種国際文化都市計画の一切をふくみ現在の駒場町を中心とした一帯に芝生を植え藤だなの下随所にベンチを設け緑一色の…場所に…</p> <p>◇「文化会館の着工は今秋 刑務所跡に国際記念公園」（長崎民友 (1951 (S26) /8/15) …刑務所跡の整地問題は、国際記念公園として 1 万坪の敷地を…三か年間で完成させつことに決定した…</p>
1952 S27		<p>★三菱会館：8. 8 夜 7 時～長崎市主催の、戦後初めの「平和祈念祭」開催</p> <p>★松山町爆心地（原爆公園）：8/9 午前 10 時半～市慰霊祭が開催され、被災者、遺家族の慰霊祭が田川市長夫妻を喪主として催され“平和の礎えとなった人よ安らかに眠れ”と追悼。田川市長追悼の辞、遺族代表久保忠八氏が慰霊の辞など、慰霊祭終了後、各宗合同の慰霊祈祷が行われた。</p> <p>■浦上天主堂：8/9 朝 5 時半～第一ミサ。市内外からの信徒約三千人参加</p>	<p>*城山小学校：8/9 午前 9 時～平和記念祭開催</p> <p>*長大新築校舎：長大追想会開催。グピロが丘の慰霊碑前に黙祷</p> <p>*岩川町原爆供養塔慰霊祭：8/9 午前 10 時～同町市営アパート裏の原爆供養塔に町内有志多数集まり、供養</p> <p>*駒場町慰安所：8/9 午後 1 時～同町自治会長滝川勝氏が慰霊祭を行った。</p> <p>*長崎商工会議所：8/9 午後 7 時～平和供養祭が行われた。</p> <p>*その他：大洋漁業、長崎製鋼、長崎精機、長崎刑務所など慰霊祭</p> <p>*8/9 夜、城山町青年団その他による盆踊り、提灯行列、万灯流しなど</p>	 <p>写真：爆心地での慰霊祭 出典：長崎民友 1952. 8. 10</p> <p>◇「完成は明年 4 月 長崎国際文化会館きょう起工」（『長崎日日』1952 (S27) /4/28</p> <p>◇「独立回復と長崎 平和祈念像の再検討を要望」（同上）</p>
1953 S28		<p>★松山町爆心地（原爆公園）：8/9 午前 10 時～市主催の「原爆犠牲者供養ならびに平和祈念式典」が行われる。犠牲者の遺族、県・市各界の代表など約千五百名参列。クス玉から放鳩。</p> <p>■浦上天主堂：8/8 午前 6 時～原爆犠牲者追悼ミサが挙行</p> <p>■松山町爆心地（原爆公園）：8/9 午後 6 時半～長崎市宗教連盟主催の「原爆犠牲者慰霊祭」</p>	<p>*城山小学校：8/9 全校生徒を対象にした平和記念式挙行</p> <p>*長崎大学：8/9 午前 11 時～犠牲者の慰霊祭、座談会など開催</p> <p>*松山町爆心地（原爆公園）：8/9、10 両日午後 8 時～、原爆犠牲者供養奉賛会主催、長崎日日新聞社後援の「供養盆踊り」</p> <p>*その他：原爆犠牲者供養奉賛会主催の万灯流しが、被爆各町の「平和踊り」などが行われた。</p>	 <p>写真：爆心地での慰霊祭 出典：長崎日日 1952. 8. 10</p> <p>★三菱会館：長崎市、NHK 長崎放送局の協力を得て、8/8 夕方三菱会館で長崎市主催原爆記念日夜祭「平和の夕べ」を開催（『長崎市史年表』）</p> <p>◇「完成近づく平和祈念像 石膏おわり年内に鋳造 輸送は百回に分解」（長崎日日 1953 (S28) /8/9)</p> <p>◇「原爆禁止など討議活発 九州平和大会“警官を締出せの”一幕も」（長崎日日 1953 (S28) /8/10)</p>

<p>1954 S29</p>	<p>★松山町爆心地（原爆公園）：8/9 午前 10 時 40 分～9 長崎市主催第 3 回目の「原爆犠牲者慰霊並びに平和祈念式典」開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ■松山町爆心地（原爆公園）：8/9 午前 6 時半～原爆殉難者慰霊奉賛会主催によりキリスト教連合会の慰霊祭が開催 ■浦上天主堂：8/9 午前 7 時～上のキリスト教連合会の慰霊祭の後、天主堂で追悼ミサ ■松山町爆心地（原爆公園）：8/9 午前 9 時半～宗教連盟執行の慰霊法要 ■松山町爆心地（原爆公園）：8/9 午後 5 時～神道連合会の慰霊祭開催 ■松山町爆心地（原爆公園）：8/9 午後 7 時半キリスト教青年団約三百名による松明行列が同公園から浦上天主堂まで行われ、引き続き聖体降服式が行われた。 *城山小学校：8/9 午前 9 時～同校“平和の像”前にて慰霊祭 *純心学園：8/9 午前 9 時～同校“慈悲の聖母像”前で追悼ミサ *長大医学部：8/9 午前、グビズカ丘の慰霊碑に参詣、その後同学部会議室で原爆体験者座談会が開かれる *その他：淵中など、各学校でもささやかな慰霊式 *浦上川（梁川）：8/9 夜 8 時過ぎ、万灯流し *松山町爆心地（原爆公園）：8/10 午後 7 時～平和踊り、7 時半～花火大会 	 <p>写真：爆心地での慰霊祭。出典：長崎日日 1954. 8. 10</p>	<p>8. 8 県共同募金会長崎市支会が三菱会館で原爆障害者治療募金の夕べを開催（『長崎市史年表』）</p> <p>◇「原爆公園で大法要 仏教青年全国大会」（長崎民友 1954（S29）/8/9）…8 日午前 9 時半から長崎市三菱会館で開かれた第 5 回仏教青年大会にのぞんだのちに、同会館前から長崎駅前まで各地区仏青旗をなびかせながら市中行進を行い、バスで午前 10 時半長崎市松山町原爆公園に到着…</p> <p>◇「平和像完成は来年半ば 建立地調査へ北村西望氏来崎」（長崎日日 1953（S28）/8/9）平和祈念像建立地点の実地調査のため…北村西望氏（73）は日展審査員富永直樹氏（42）とともに 7 日午後…来崎、…次の通り語った。頭、手などの製作を終り、現在胸部から下の鋳物の製作工程に入っている。…来年の梅雨ごろまでには全部を完成したい…。建立地は原爆中心地付近が適切だろう…。</p>
<p>1955 S30</p>	<p>★平和公園：8/9 午前 10 時 40 分～長崎市主催「原爆犠牲者慰霊祭と平和祈念式典」開催。祈念像前に特設された原爆犠牲者の霊の碑を囲み、田川市長、西岡知事、秋山、藤野両参議、北村、中嶋、木原各代議士、中部長崎商工会議所会頭、渡貫新聞社社長、ほか、フランス領事ブクリイ氏、中国領事陳衡力氏ら、各界代表をはじめ、遺族、一般市民など約 1 万人が参列</p> <ul style="list-style-type: none"> ■浦上天主堂：8/9 午前～原爆犠牲者追悼ミサ ■平和公園：8/9 午前 9 時 20 分～長崎市仏教連盟主催原爆犠牲者慰霊祭開催、キリスト教、神社、仏教、神道の参加で盛大に催された。 *平和公園：8/9 午前 9 時～長崎市原爆殉難者慰霊奉賛会と茶道裏千家談交会長崎支部主催の原爆犠牲者慰霊祭奉賛の献茶会 *城山小、山里小、淵中、浦上信愛女子学園など、8/9 に慰霊祭、記念式典 *純心女子学園：8/9 午前 8 時～追悼ミサ *長大医学部：8/9 午前 11 時～グビロが丘に眠る犠牲者の慰霊祭。引続いて、医学部正門の門柱の除幕式を行った。 *城山八幡神社境内：8/9 午後 3 時～城山自治会主催の慰霊祭開催 *平和公園：8/9 午後 7 時半～平和公園から浦上公園にかけて松明行列 *浦上川（梁川）：8/9 夜、万灯流しが行われた。 	 <p>平和公園での慰霊祭（長崎日日 8. 10）</p>	<p>◇「きょう平和祈念像除幕式 世界に平和誓う」（長崎日日 1955（S30）8/8）…県下各地知名士を始め遺族、一般市民、各団体、建設募金に協力した全国各地の有志など約二千名が参列…午前 9 時 30 分菅諏訪神社宮司の修祓…田川長崎市長が除幕、続いて降神、献饌…田川市長、知事ら賓客の玉串奉典後、撒饌、昇神の神事…</p> <p>◇「平和の徹底が使命 西望氏感慨深げに語る」（長崎民友 1955（S30）8/9）</p> <p>◇「きょう平和世界大会 インド代表らも参加」（長崎民友 1955（S30）8/9）</p>
<p>1956 S31</p>	<p>★平和公園：8/9 午前 10 時 55 分～長崎市主催「原爆犠牲者慰霊祭並びに平和祈念式典」開催。第二回原水爆禁止世界大会に出席した内外三千名の代表を含め、約 1 万人が集まる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■浦上天主堂：8/9 午前 7 時～原爆殉難者慰霊ミサ ■平和公園：8/9 午前 9 時 40 分～長崎原爆慰霊奉賛会が殉難者慰霊式 ■山王神社：8/9 午前 10 時半～慰霊祭。 *純心学園白百合乙女の像の前：8/9 午前 10 時半～追悼ミサ *長大医学部グビロが丘慰霊塔前：8/9 午前 10 時～慰霊祭。 *その他：信愛幼稚園やでは 8/9、三菱兵器慰霊塔では 8/9 午前 10 時半～など、それぞれ慰霊祭。 	<p>★国際文化会館：8/8 午後 7 時半～長崎市平和祈念市民音楽の夕</p> <p>◇「装い新たな原爆公園 落下中心塔も建てかわる」（長崎日日 1956（S31）8/5）</p> <p>◇「あの日の記念永遠に 原爆中心地標 蛇紋岩に建替え」（長崎民友 1956（S31）8/5）</p> <p>◇第二回原水爆禁止世界大会は 9 日～11 日の 3 日間、長崎市東高校体育館にて開催される。冷房は百五個の扇風機で。14 か国の代表一堂に…（長崎日日 1956（S31）8/8～8/10）</p> <p>◇「“被爆者を救え”と絶叫 通訳ももどかしげ」（長崎民友 1956（S31）8/11）</p>	

1949 年は「長崎国際文化都市建設法」という特別法が公布される年である。8 月 9 日の原爆記念日に合わせて、8 月 7 日から 17 日の約 11 日間にわたって様々な記念活動が長崎市内のいろいろな場所で行われ、全市挙げての記念期間となった。中心的な記念式典は 8 月 9 日爆心地公園での「文化祭」である。添付の写真で分かるように、そこで爆心地の標識が原爆慰霊塔に見立てられ、当時の大橋市長が犠牲者の慰霊のために花束をささげた。盛大な文化祭に各界の代表と約千五百名の市民が参列し、永井博士の令嬢カヤノさんの手から鳩を放つ演出も取り入れられた。一方、従来にあった慰霊活動は戦災者連盟や仏教連盟の合同によって爆心地公園にて早朝に行われ、カトリック信徒は浦上天主堂にて、城山町の八幡神社や寺町の皓台寺などの場所でも、それぞれ行われた。また、爆心地公園では夜、二万余名が原爆落下中心碑を囲んで、夜半過ぎまで盆踊りを踊り抜いた。爆心地は原爆記念の中心地であるようになってきたことが分かる。

国際情勢は早くも市民の行事に影響を与える。1950 年は朝鮮戦争の勃発により、原子爆弾が再使用される機運が高まり、戦時下に際して文化祭や記念行事が一切禁止とされる。前年度の盛大な祭典とのギャップが大きく感じられる。しかし、市民レベルの小規模の追悼会は原爆記念日において各地各所で行われていたことが新聞記事にあまり詳細ではないが、書かれている。

1951 年になると、原爆慰霊活動が再開される。一昨年度の長崎国際文化都市建設法の成立によって、復興事業が進んでいる状況にある。原爆記念日に際して、8 月 7 日から 3 日間の記念活動が用意された。8 月 9 日の慰霊活動は戦災者連盟、連合青年団、仏教連盟の合同によって爆心地公園にて行われる。夜には駒場町の競輪場にて賑やかな盆踊りが、さらに浦上川のほとりで万灯流しが行われるようになる。この年から、浦上刑務所跡の公園化（国際記念公園）や国際文化会館建設を始め、競輪場、総合運動場などのスポーツ施設を含めた爆心地一帯（松山町・駒場町一帯）の記念事業計画が発表され、そして平和祈念像建設の方針も決まり、祈念像基金のための募金が始まる。国際文化都市建設法の成立による建設の速さを感じられる。

1952 年の原爆記念日に際して、長崎市主催の戦後初めての「平和祈念祭」が 8 月 8 日の夕方に、三菱会館で開

催される。そして、8 月 9 日に「原爆犠牲者法要並びに平和祈念式典」が長崎市・原爆供養奉賛会によって爆心地公園で開催される。今日の平和祈念式典に繋がる発端はこの年であると考えられるが、新聞を見る限り、8 月 9 日の記念行事は慰霊祭的な性格が濃い。そして写真を確認していくと、爆心を示す「原子爆弾落下中心地之標」の標識には「原爆犠牲者之霊」という文字が掛けられ、この日のために標識が慰霊碑に模様替えされていることが分かる。前日夜の「平和祈念祭」は「平和は長崎から」という標語を掲げ、平和式典的な性格の行事であることが分かる。長崎市主催の 8.9 の慰霊祭が終了後、仏教各宗合同の慰霊祭が同じ場所で行われた。一方、カトリック信徒は早朝から浦上天主堂でミサが行われる。そして民間では、長崎大学、大洋漁業、長崎製鋼、長崎精機、長崎刑務所などの場所でそれぞれの慰霊祭が開催された。夜には浦上地区にて青年団などによる盆踊り、提灯行列が、浦上川のほとりで万灯流しが行われた。

1953 年は前年と同様、8 月 8 日に三菱会館にて長崎市主催で前夜祭として「平和の夕」が行われる。そして原爆記念日の 8 月 9 日には長崎市・原爆慰霊奉賛会主催の「原爆犠牲者供養ならびに平和祈念式典」が 10 時から爆心地公園にて開催され、爆心地の標識は「原爆犠牲者の霊」に模様替えされた。クス玉から放鳩のパフォーマンスが盛り込まれ、平和式典としての性格及び演出性に発展が見られる。夜の爆心地公園での「供養盆踊り」と浦上川での「万灯流し」は原爆犠牲者慰霊奉賛会の主催となっている。宗教界では、浦上天主堂では 8 月 8 日の早朝、追悼ミサが行われ、市宗教連盟主催の「原爆犠牲者慰霊祭」は 8 月 9 日の夕方 6 時に爆心地公園にて行われた。民間では城山小学校や長崎大学をはじめ、各地で慰霊活動が行われた。この頃は平和運動が盛んになり、長崎では九州平和大会が開催され、「各民間団体でも多彩な平和記念行事が随所で行われる」というような記事にあるように、「慰霊祭」は「平和記念行事」に、「盆踊り」は「平和踊り」に、変化の様相が見られる。一方、2 年前から進められてきた平和祈念像の製作は完成に近いと報道された。

1954 年の長崎市主催の祈念式典は 1952 年以来の 3 回目となる。前年度までにあった三菱会館での前夜祭はなくなっているが、8 月 9 日 10:40 からの「原爆犠牲者供

養ならびに平和祈念式典」は前年度と同様、爆心地公園にて行われ、演出性が更に高められ、鳩の放ち方はクスマが割れ鳩が飛ぶという形が取り入れられた。前日夕べの三菱会館では県共同募金会長崎市支会による原爆障害者治療募金の会合が行われた。宗教界では、まずキリスト連合会が早朝、爆心地公園で慰霊祭を行った後、浦上天主堂仮聖堂追悼ミサを行った。仏教連合会宗教連盟執行の法要は9:30から爆心地公園にて行われ、そして、神道連合会による慰霊祭は午後5時から爆心地公園で行われた。夜7時半にはキリスト教青年団約三百名による松明行列が爆心地公園から浦上天主堂まで行われた。この8月9日の爆心地公園の種々の慰霊活動を見ていくと、多くの時間帯にわたって行われていたことが分かる。民間では、城山小学校や純心学園や長崎大学医学部などはそれぞれの場所で慰霊活動が行われた。梁川（浦上川支流）での万灯流し、爆心地公園での平和踊り、花火大会なども行われる。一方、「平和祈念像の完成は来年半ば」という記事があり、祈念像の進捗が発表された。

1955年は平和祈念像並びに平和公園（当時は「国際平和公園」と称されていた）の完成に伴い、8月9日の記念活動はこの新しい公園で開催されるようになり、以降もこの平和公園は原爆犠牲者の慰霊ならびに平和記念活動の中心地となる。平和祈念像の除幕式は8月8日の9:30から盛大に行われた。8月9日の平和公園での諸活動を見ていくと、午前9時から、原爆殉難者慰霊奉賛会と茶道裏千家談交会長崎支部主催の原爆犠牲者慰霊祭奉賛の献茶式が行われ、続いて、長崎市仏教連盟主催の原爆犠牲者慰霊祭が、キリスト教、神社、仏教、神道の参加で開催された。10:40から長崎市・原爆慰霊奉賛会主催の「原爆犠牲者慰霊祭並びに平和祈念式典」が行われ、各界の代表に平和祈念像の作者の北村西望も加わり、遺族及び一般市民など約1万人が参列したという。閉式直後に新聞社の飛行機が上空に姿を現し、展開しながら慰霊の花束と平和への願いのピラを散布した。夜には7:30から松明行列が平和祈念像前に参列した約4000人によって、ゆっくりと浦上天主堂まで行われた。平和公園以外では、城山小、山里小、淵中、浦上信愛女子学園、純心女子学園、長大医学部、城山町など、それぞれの場所で慰霊活動が行われた。

3. 考察および結語

以上において、1945年から1955年までの約10年間の長崎市内における原爆犠牲者の慰霊活動を、新聞記事などを通して概観した。毎年の慰霊活動はその時の社会状況などによって違いや変化（或いは進化）があるものの、共通点も見出される。開催主体と場所との関係から見ると、民間団体の場合は、その団体における犠牲者への慰霊活動であるため、一般的には各団体の所在地で行われる。それに対して、爆心地周辺、特に爆心地公園で行われる慰霊祭は、戦災者連盟や原爆犠牲者慰霊奉賛会や長崎市主催のもの、また、仏教連盟或いは宗教連盟主催のものとなる。カトリック信徒は浦上天主堂の跡地内の広場や仮聖堂で追悼ミサを行われるが、松明行列などの屋外での行事には爆心地はその重要な場所となっていたことが分かる。爆心地公園はまた夜の慰霊活動である盆踊りの重要会場になっていた。部門を超えた、いわゆる「原爆犠牲者」の対する慰霊活動は、爆心地をめぐる一帯がその最も中心的な場所に選ばれていたことが分かる。爆心地がこのような慰霊活動の中心的な場所になった要因は、時系列から見ると、1946年度の杉本亀吉らの遺族有志の主催による「長崎市戦災死没者慰霊祭」がその始まりであり、その2年後の爆心地の公園化の完成により、その場所の記念的な意味が一層認識され、記念行事にふさわしい場所になったことがひとつであると考えられる。一方、そこで爆心地を示す標識が、原爆記念日に慰霊碑の役割が果たされることが意味深いことである。原爆落下中心碑を含めた「爆心地」という場所が原爆のシンボルに見なされたことを示すものである、と考える。その頃の慰霊活動には、「爆心地」という場所の象徴性が生かされていた、と言えよう。

およそ1952年以降となると、慰霊行事に平和祈願の内容と性格が増し、慰霊祭が平和の祭典に徐々に変貌し、記念活動には演出的な内容も増加する傾向が見られる。このような変化は内外の情勢の変化に関係し、様々な要因によることを考え、これについては別の機会に考察することにした。その流れの中で、新たなシンボル、新たな宣伝ツールが求められるようになり、ついに1955年に平和祈念像のある平和公園が完成される。平和祈念像の除幕を境目に、爆心地公園での原爆慰霊活動は、平和公園に変わる。なお、長崎における平和祈念像建設の経緯に関しては、新木の研究⁽⁹⁾が示唆するところがある。

場所の広さから見ると、新しくつくられた平和公園の方は、イベント会場として有利な側面がある。また、パフォーマンスという点においても、造形性の高い平和祈念像のある場所が、演出性が高いと言える。慰霊祭の平和公園への移行はスムーズで、抵抗するような新聞記事はあまり見当たらなかった。

しかし、筆者が焦点にしているのはパフォーマンスやイベント性ではない。記念イベントの背後に含まれる犠牲者に対する慰霊的な性格、或いはもっとその底層に横たわる一般的で普遍的な「追惜」の念をどこに托すかというところである。そこで、一見して「無の場所」である爆心地が、ありのままの記憶の場として、意味があるように感じられる。戦後の約10年間の慰霊活動はこの場所の特殊性を示してくれているのではないかと考える。

イベント機能は重要な側面ではあるが、被爆の歴史に対する記憶機能は長崎平和公園の主題性を深めることに重視されるべき側面になるのではないかと考える。そこで、原爆投下の歴史の記憶の場として、爆心地を生かしながら、そこを原点に全体のコンセプトを組み立て、空間を再構築していくことが、将来的に求められるところになるのではないかと考える。

なお、論点を更に整理していくために、1955年以降の公園利用の実態や、計画案の中身とその変遷（再計画）などについても考察を加えていきたいと考える。

謝辞

本研究は科学研究費（基盤（C）21K12470）によるものである。

参考文献

- (1) 末廣真由美、長崎平和公園—慰霊と平和祈念のはざままで、小佐野重利、木下直之編『生死学4 死と死後をめぐるイメージと文化』、東京大学出版会2008年、第7章、pp. 199-232
- (2) 大平晃久、長崎平和公園の成立—場所の系譜の諸断片—、長崎大学教育学部紀要、No. 1、2015. 3. 1、p. 15-28
- (3) 大平晃久、長洞原爆落下中心碑にみるモニュメントの構築、長崎大学教育学部紀要、No. 3、2017. 3. 1、pp. 1-16
- (4) 矢野敬一、慰霊・追悼・顕彰の近代、吉川弘文館、

2006.3.10、pp.1-13

- (5) 西村明、戦後日本と戦争死者慰霊、シズメとフルイのダイナミズム、有限会社有志舎、2006. 12. 25、p. 89-114
- (6) 国学院大学研究開発推進センター編、慰霊と顕彰の間—近代日本の戦死者観をめぐる—、錦正社、平成20年7月15日、pp.4-7
- (7) 李桓、長崎市における「被爆建造物等」の保存の課題、長崎総合科学大学地域科学研究所『地域論叢』No. 33、2018. 3、pp. 9-15
- (8) 李桓、戦後初期の長崎市の原爆慰霊活動をめぐる新聞記事—長崎平和公園の形成における歴史的背景の考察、『地域論叢』、No. 38、2023. 3、pp. 87-96
- (9) 新木武志、長崎の戦災復興事業と平和祈念像建設—長崎の経済界と原爆被災者、原爆文学研究会編、『原爆文学研究』14、花書院、2015. 12、pp. 181-204